

受賞者〈姫新線利用促進・活性化同盟会〉

＜官民一体となった公共交通利用促進＞

平成22年3月より、行政、鉄道事業者と沿線住民が一体となり、JR姫新線利用促進を図る取組みを行っている。

新型車両導入等の輸送改善事業や試行的な増便運行を実施すると共に、地元住民へのモビリティ・マネジメントや地域が主体となった沿線イベントを実施した結果、平成21年度と比較して年間利用者が57万人（23.9%）増加した。

1. 取組みのきっかけ

JR姫新線（以下、姫新線という）は、姫路市と中国地方内陸部をつなぐ地方交通線鉄道で、兵庫県内では、姫路・上月駅間の50.9kmに及び、沿線地域の日常生活の交通手段として、また観光客の足として、重要な役割を担っています。

しかしながら、モータリゼーションの進展等、社会情勢の変化による乗車人数の減少、それに伴うダイヤの減便、利便性の低下による更なる乗車人数の減少を招くという“負のスパイラル（連鎖）”状態にあり、姫新線の活性化が課題となっていました。



2. 取組みの内容

①輸送改善事業

古い車両(キハ47等)を使っていたことが、速達性の阻害要因のとして大きかったため、平成18年度～21年度にかけて、沿線の姫路市・たつの市・佐用町と兵庫県、JR西日本が協力して、新型車両(キハ127等)の導入とそれに伴う軌道改良等を実施しました。

②増便試行

列車の運行速度が上がることで列車の運行間隔を短くすることができます。輸送改善事業の完了による高速運行の開始にあわせて、平成22年3月から2年間、輸送改善事業と同じく、姫路市・たつの市・佐用町・兵庫県、JR西日本が協力して、増便試行を実施しました。

③同盟会等による利用促進施策の実施

上記の取組みに加えて、「チャレンジ300万人乗車作戦」と銘打ち、本同盟会や関係者により、様々な利用促進施策が実施されています。

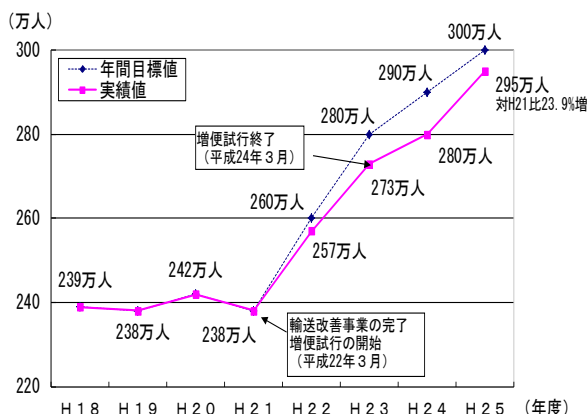
- ・ 駅周辺駐車場の整備
- ・ 鉄道利用の助成制度
- ・ 栗拾いハイキング等のイベント
- ・ 沿線観光パンフレットや広域時刻表配布
- ・ 小学校への出前講座 等

また、同盟会で独自に乗降調査を実施し、利用状況を調査しているほか、同盟会が主体となり、J R等関係者を交えて月に1回、会議を実施し、より効果的な利用促進施策を行えるよう協議を続けています。

3. 取組みの成果

輸送改善事業による高速化前の平成21年度には、年間238万人にまで減少していた乗車数が、増便試行が終了した平成23年度には273万人にまで増加しました。これをうけて、平成25年度以降もJ R西日本により増便試行の間に増便された便の半分以上が維持されました。

また、本同盟会や関係者により、利用促進の取組みが継続され、平成25年度には目標の300万人にせまる、295万人(対21年度比23.9%増)にまで利用者が増加しました。引き続き、本同盟会が中心となった利用促進に努めてまいります。



姫新線利用促進・活性化同盟会

会長 たつの市長 栗原 一

事務局：たつの市企画財政部企画課
〒679-4192

兵庫県たつの市龍野町富永 1005 番地 1
電話 0791-64-3141 (直通)

URL <http://kisinsen.jp>

構成団体：たつの市、姫路市、佐用町、兵庫県、各市町議会、姫路商工会議所、龍野商工会議所、たつの市商工会、佐用町商工会 (アドバイザー: JR 西日本)

**チャレンジ
300万人
乗車作戦**

「チャレンジ300万人乗車作戦」は、全国的にローカル線の乗客が減少傾向にある中、姫新線の乗車人員数のピークであった平成3年度の年間約300万人を目標として、姫新線を核とした地域活性化事業の企画・実施をはじめ、通勤・通学者や団体利用者に対する助成や、沿線小学生の総合学習の取り組みなどを通して、姫新線を地域の足として、また守るべき地域の財産として位置づけ、沿線住民と行政が一丸となって取り組んでいる利用促進運動です。

